

規格外の面白さ、ここにあり。

第7回山田風太郎賞選考結果のお知らせ

株式会社 KADOKAWA(代表取締役社長:松原真樹)と一般財団法人角川文化振興財団(理事長:角川歴彦)が、2009年に創設しました文学賞『山田風太郎賞』の選考会が、2016年10月21日(金)午後4時より、帝国ホテル東京(東京都千代田区内幸町)にて行われ、選考委員の審査により下記候補作品の中から受賞作が決定しました。



【第7回山田風太郎賞】

■正賞 記念品(名入り万年筆) ■副賞 100万円

『罪の声』 著:塩田武士

選考委員 奥泉 光、京極夏彦、筒井康隆、林 真理子、夢枕 獏 (敬称略・五十音順)

【第7回候補作品】 ※著者五十音順

垣根涼介	『室町無頼』	(新潮社)	2016年8月刊行
塩田武士	『罪の声』	(講談社)	2016年8月刊行
零井脩介	『望み』	(KADOKAWA)	2016年8月刊行
中路啓太	『ロンドン狂瀾』	(光文社)	2016年1月刊行
万城目学	『バベル九朔』	(KADOKAWA)	2016年3月刊行
山田宗樹	『代体』	(KADOKAWA)	2016年5月刊行

「山田風太郎賞」は戦後日本を代表する大衆小説家、故山田風太郎氏の独創的な作品群と、大衆性、ノンジャンル性、反骨精神など氏が貫いた作家的姿勢への敬意を礎に、有望な作家の作品を発掘顕彰するために創設しました。毎年9月1日から翌年8月31日までに書籍として発表された長編および短編の文芸作品(ミステリ、時代、SFなどジャンルを問わない)の中より最も面白いと思われる作品に贈ります。新人、新進、中堅作家の作品が対象となります。

角川三賞として、本賞と、『第36回横溝正史ミステリ大賞』および『第23回日本ホラー小説大賞』(主催:株式会社 KADOKAWA、一般財団法人角川文化振興財団)の贈賞式および祝賀会は11月25日(金)に、いずれも帝国ホテル東京にて開催します。

<作品内容> 『罪の声』(つみのこえ)

京都でテラーを営む曾根俊也は、ある日父の遺品の中からカセットテープと黒革のノートを見つける。ノートには英文に混じって製菓メーカーの「ギンガ」と「萬堂」の文字。テープを再生すると、自分の幼いころの声が聞こえてくる。それは、31年前に発生して未解決のままの「ギン萬事件」で恐喝に使われた録音テープの音声とまったく同じものだった――。

(講談社 公式サイトより <http://bookclub.kodansha.co.jp/product?isbn=9784062199834>)

<著者略歴> 塩田武士(しおた・たけし)

1979年兵庫県生まれ。37歳、男性。関西学院大学社会学部卒業。京都府在住。記者として新聞社に在職していた2010年『盤上のアルファ』で第5回小説現代長編新人賞を受賞し、デビュー。その他の著書に『女神のタクト』『ともががんばりましょう』『崩壊』『盤上に散る』『雪の香り』『氷の仮面』『拳に聞け!』『罪の声』がある。

以上。